

# 食品安全情報 No. 7 / 2003 (2003. 06. 26)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

---

食品関連情報（共通トピックス）	--- page 1
食品微生物関連情報	--- page 4
食品化学物質関連情報	--- page 10

---

## 微生物・化学共通トピックス

《フランス食品衛生安全局（AFSSA）のフランス語ページの翻訳を開始しましたので、今回は、トップページ全画面を簡略に翻訳しました。》

AGENCE FRANÇAISE DE SECURITE SANITAIRE DES ALIMENTS (AFSSA)

<http://www.afssa.fr/>

### ● Accueil ホーム

フランス食品衛生安全局のサイトによるこそ。

保健省、農業省及び消費省の共同所管の公共機関である AFSSA は、1998 年 7 月 1 日の衛生管理と食品の監視に関する法律の適用をうけ、1999 年 4 月 1 日に設立されました。

### ● Les missions de l'AFSSA AFSSA の使命

原材料の生産から末端消費者への配給にいたるまでの食品栄養・衛生のリスク評価

家畜の健康、食料衛生、栄養に関する研究活動と技術的支援

動物用医薬品に関する業務の遂行：販売許可や最大残留基準に関する書類の評価、品質管理、広告規制、動物用医薬品のモニタリング

### ● Actualité à la une 新着情報

- ・ 2003 年 6 月 19 日 2003 年 3 月 9 日の意見補足:カイエンペッパーに含まれる Soudan I に関するリスク評価のアプローチ
- ・ 2003 年 6 月 16 日 オメガ 3 脂肪酸強化食品に関する情報提供・意見交換会
- ・ 2003 年 6 月 12 日 小型反芻動物の TSE の迅速なスクリーニングに関する食品衛生安全局の意見
- ・ 2003 年 5 月 22 日 利益に関する公式発表

- Autres actualités その他のニュース
- s'inscrire à la liste de fusion メールリストに登録
- Fiches thématiques de l'AFSSA AFSSA テーマ別データ

- 意見・見解

AFSSA は、食品および動物用飼料の衛生・栄養のリスク評価に関する見解を公表している。

<メニュー>

- Présentation 紹介
- Actualité ニュース
- Avis 意見・見解
- Laboratoires 研究施設
- Dossiers ファイル

<新着情報>

- コミュニケ：2003年6月19日 2003年3月9日の意見補足：カイエンペッパーに含まれる Soudan I に関するリスク評価のアプローチ

内容を見るには以下のリンクをクリック。《内容要旨を翻訳中》

[http://www.afssa.fr/ftp/actu/Complement\\_a\\_lavis\\_du\\_9\\_mai\\_2003.pdf](http://www.afssa.fr/ftp/actu/Complement_a_lavis_du_9_mai_2003.pdf)

- コミュニケ：2003年6月16日 オメガ3脂肪酸強化食品に関する情報交換会  
「オメガ3族の脂肪酸と心臓血管系：栄養上の利点と強調表示」ワーク・グループの報告発表。

グループの報告の発表は2003年7月10日、10時から13時、AFSSAにて。(27/31 avenue du général leclerc à Maisons-alfort)

報告書は以下に関する知識を確立：

- －フランス国民のオメガ3脂肪酸の消費データ
- －これらの脂肪酸と心血管系の健康状態との関連性についての研究
- －オメガ3脂肪酸強化食品の多様な側面を検討し、この分野における健康と機能強調表示の使用の勧告する。

登録用紙は以下のリンクからダウンロード可能。

[http://www.afssa.fr/ftp/actu/invitpreinscription\\_journee\\_omega\\_3.pdf](http://www.afssa.fr/ftp/actu/invitpreinscription_journee_omega_3.pdf)

- コミュニケ：2003年6月12日 小型反芻動物のTSEの迅速なスクリーニングに関する食品衛生安全局の見解

フランス食品衛生安全局は 2002 年 11 月 14 日、食品部から小型反芻動物における TSE のスクリーニング・テストの実施、現場でのあり方について意見提出を委ねられた。

特に、現在フランスで小型反芻動物に対して使用されている 2 種類のテストの感度に大きな開きがあることを明白に示す科学的根拠の存在に関する意見が求められた。

当局の意見は以下のリンクからダウンロードが可能。

<http://www.afssa.fr/ftp/actu/2002sa301.pdf>

● コミュニケ：2003 年 5 月 22 日 利益に関する公式声明

1998 年 7 月 1 日法は「食料衛生安全局の業務に非常勤で携わる者、またはその他同局に設置されている評議会、委員会等に携わる者は、自らの直接的、または間接的な利益につながる問題に関わってはならない。」と定めている。

該当者は任命時または仕事開始時に、同局局長に対し、自らが管轄する分野の製品を生産する企業ないし施設との直接的または間接的な関係を報告する。その他この業界における協会や顧問団体との関係も同様に報告する。

利益に関する公式発表集は食品衛生安全局の広報部にて注文受付。

電話：01.49.77.26.02 Fax：01.49.77.26.12 Eメール：[wb.internet@afssa.fr](mailto:wb.internet@afssa.fr)

[http://www.afssa.fr/actualites/index.asp?id\\_theme=1086&id\\_info=5320](http://www.afssa.fr/actualites/index.asp?id_theme=1086&id_info=5320)

## 食品微生物関連情報

### 【緊急トピックス】

- Enter-net から、感染研を含む世界各国の参加機関に緊急の情報提供と協力依頼  
フランスで馬肉喫食に伴い、多剤耐性 *Salmonella* Newport に感染。

#### Outbreak of multidrug resistant *Salmonella* Newport due to the consumption of horse meat in France

今年5月12日～6月4日に、北フランスで14人の患者が確認された。患者内訳は子供9人、大人5人、平均年齢24才、性比1:1。全員が消化器症状、7人が出血性下痢。11人が入院したが、死者はなし。全員が馬肉ステーキあるいは馬肉挽肉料理（うち6人が生の挽肉）を喫食した。それぞれ異なる肉屋やスーパーマーケットから肉を購入したが、ほとんどの店は同一の間屋から仕入れている。馬肉汚染源は現在調査中。分離された菌は、beta-lactamines, streptomycin, sulfamide, tetracycline, chloramphenicol に耐性。検査した7株はPCRにより全てCMY遺伝子陽性。多剤耐性 *S. Newport* は数年前から北米で分離されるようになったが、ヨーロッパでは今回初めて確認された感染例である。このアウトブレイクに関連する事例または原因食品、あるいは馬肉に関連した感染事例についての情報提供を依頼。

### 【外国機関のニュース】

- WHO Department of Food Safety

<http://www.who.int/fsf/>

該当緊急ニュースなし

- WHO Communicable Disease Surveillance & Response (CSR) Disease Outbreak News

<http://www.who.int/csr/don/en/>

1. ペスト、アルジェリア

#### 24 June 2003

オラン高原の裾野の Taфраoui で、23日までに10人（うち1名死亡）の腺ペスト患者が発生。抗生剤による治療、国外機関との連携などの対応。

[http://www.who.int/csr/don/2003\\_06\\_24a/en/](http://www.who.int/csr/don/2003_06_24a/en/)

2. コレラ、イラク

#### 19 June 2003

4月28日から6月4日までの間に、イラクの3地域で73例のコレラ確定例が報告された。

死者の報告はない。5月17日から6月4日までの期間に行われた、バスマの4つの病院でのサーベイランスでは、1549例の水溶性下痢患者が報告された。UNICEFとWHOが支援中。

[http://www.who.int/csr/don/2003\\_06\\_17A/en/](http://www.who.int/csr/don/2003_06_17A/en/)

### 3. 腸チフス、ハイチ

17 June 2003

5月30日現在、ドミニカ共和国に隣接する Grand Bois 地区で、200人のチフス患者と40人の死亡例が PAHO とハイチ保健省に報告された。3例から病原体が確定。アウトブレイクは4月の乾季に始まったが、この地域は医療機関へのアクセスもなく、飲料水の衛生状態も非常に悪い (all water points in the area showed a maximum level of *E.coli* pollution)。PAHO とハイチ保健省は調査及び医療チームを派遣した。

[http://www.who.int/csr/don/2003\\_06\\_17a/en/](http://www.who.int/csr/don/2003_06_17a/en/)

## ● FDA

<http://www.fda.gov/>

### 1. フードセイフティからフードセキュリティへ

Management Changes in the Center for Food Safety and Applied Nutrition (CFSAN)

June 23, 2003

CFSAN's Program Priorities: From Food Safety to Food Security

May 2003

FDA, CFSAN は対テロ対策を含めた食品安全を目指すために、幹部ポストを新設し、組織を改変した。

<http://www.cfsan.fda.gov/~news/whatsnew.html>

### 2. アメリカとメキシコの間での魚介類の安全性と品質を向上させるための覚書(MOU)

The U.S. and Mexico Sign a Memorandum of Understanding Enhancing the Safety and Quality of Shellfish

June 18, 2003

メキシコでの魚介類衛生プログラムは、アメリカの National Shellfish Sanitation Program に合致するものであることを公式に合意。

<http://www.fda.gov/bbs/topics/NEWS/2003/NEW00914.html>

### 3. ジュース加工業者のための HACCP 導入教育カリキュラム

Guidance for Industry: Standardized Training Curriculum for Application of HACCP Principles to Juice Processing, Final Guidance

June 13, 2003

National Center for Food Safety and Technology (NCFST)の支援により、教育プログラムを開発。<http://www.ncfst.iit.edu> から参照。

<http://www.cfsan.fda.gov/~dms/juicgui9.html>

● CDC MMWR

<http://www.cdc.gov/mmwr/>

1. A型肝炎食中毒事例の解析ーマサチューセッツ

Foodborne Transmission of Hepatitis A --- Massachusetts, 2001

A型肝炎患者である調理従事者から食事を提供された喫食者に対する、免疫グロブリンの予防投与（PEP）の勧告の判断に関する考察。

2001年10月26日、マサチューセッツ州衛生当局は、レストランAの調理従事者Bが10月17日からA型肝炎を発症し、18日までサンドイッチ等の調理に携わっていたとの報告を受けた。Bは人工肛門をつけているが、排出物の取り扱い、レストランAでの個人衛生管理も含む衛生状況、手袋の使用等の聞き取りから、客への感染のリスクは大きくなかったと判断され、特に注意情報等の公表はなされなかった。レストランAの従業員20名は全員無症状であったが、免疫グロブリンの予防投与を受けた。ところが、11月20日から12月3日の間に、同じ郡内で46人のA型肝炎患者が発生し、うち35人が潜伏期間範囲内にレストランAで食事をしたことを覚えていた。Case-control studyにより、レストランAが感染源であると特定された(odds ratio = 29.4; 95% confidence interval = 5.1--infinity)。RNA断片のPCR分析によっても、レストランA関連患者にのみ、配列の一致が見られた。

新たな患者の中に、2人の調理従事者が発見されたため、2人の働くレストランZの客に対し、当局は11月27日、公共情報を発表してPEP投与を勧告した。1600人が投与を受けた。

当局による感染リスクの判断、PEP勧告の判断、またHAVワクチン投与に関して問題を投げかけた事例である。

<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5224a2.htm>

● USDA FSIS

<http://www.fsis.usda.gov/index.htm>

該当緊急ニュースなし

● The Canadian Food Inspection Agency

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

該当緊急ニュースなし

● FSNET Fsnet Archives - 2003

<http://www.foodsafetynetwork.ca/>

<http://131.104.232.9/fsnet-archives.htm>

1. 食中毒訴訟によって照射牛肉の需要が高まる

Food-borne-illness Lawsuits Feed Drive toward Irradiation: Research Backs Irradiated Beef

June 9, 2003

Texas A&M University 食品科学工学研究所の Mark McLellan 所長が、ナショナルレストラン協会の教育セミナーで講演。近い将来、非照射牛肉や鶏肉は未殺菌牛乳と同じくらい稀になるかもしれない、と語る。近年の食中毒件数、特に死亡例数とそれらに伴うコスト、現行の衛生管理対策にかかるコスト等を考えると、アメリカ国民は照射肉を選択する方向に関心を持つと考えられるという。

[http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet\\_june\\_24-2.htm#FOOD-BORNE-ILLNESS](http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_24-2.htm#FOOD-BORNE-ILLNESS)

2. オーストラリア、ニュージーランドからアメリカへ、ダチョウとエミューの肉の輸出始まる

Big Bird Import Rules: FSIS issues its final rule on imports of ostrich and emu meat from Australia and New Zealand

June 24, 2003

FSIS はオーストラリア、ニュージーランドでのダチョウとエミューのと殺および食肉処理に関する書類審査、現地調査を踏まえ、アメリカへのそれら食鳥肉の輸出を認めた。輸入時にも検疫を実施する。

[http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet\\_june\\_24-2.htm#BIG](http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_24-2.htm#BIG)

3. テキサスの赤痢（続報）

More than 100 Shigellosis case reported in McLennan county

June 12, 2003

過去 2~3 ヶ月に及ぶテキサス州 Waco-McLennan 郡での赤痢は、患者数総数が 100 人を超した。4~7 歳の子どものほとんど。個人衛生管理の徹底を呼びかけ。

[http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet\\_june\\_23-2.htm#MORE](http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_23-2.htm#MORE)

4. 予測微生物学データベース稼動

Predictive microbiology database launched

June 19, 2003

USDA とイギリス FSA は共同で、食品中の細菌の挙動に関する 20 年分の実験結果等の知見を盛り込んだオンラインデータベースを作成した。ComBase と名づけられたこのデータベースは、この週、フランスの Quimper で開かれた、第 4 回国際食品予測モデリング学会の席上、スタートした。すでに 20,000 例の増殖および死滅曲線と 8,000 件の増殖係数が入力されている。アクセス先は [www.ifr.ac.uk/combase/](http://www.ifr.ac.uk/combase/)。

[http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet\\_june\\_20.htm#PREDICTIVE](http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_20.htm#PREDICTIVE)

#### 5. 牛用 O157 ワクチン

New research highlights progress toward E. coli O157:H7 vaccine for live cattle

June 18, 2003

エディンバラで行われた VTEC2003（腸管出血性大腸菌に関する国際学会）において、牛用 O157 ワクチンが有効であるという 2 題の発表があった。British Columbia 大学において開発されたワクチンの機能に関する研究と、それを用いて野外実験を行った Nebraska 大学の研究である。このワクチンは牛の腸管上皮細胞への O157 の接着を阻害する抗体を産生させる。

[http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet\\_june\\_19.htm#NEW](http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_19.htm#NEW)

#### ● Food Safety Authority, UK

<http://www.food.gov.uk/>

1. UK の小売店で売られているチキンの約 50% に campylobacter が見つかったことから、対策を検討。

Agency Consults on Campylobacter in Chicken

17 June 2003

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/campchickenstrategy>

2. FSA はスコットランドにおけるヒト campylobacter 感染の研究チームに参加する研究者を募集

Call for Campylobacter Research

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/125405>

#### ● EU ニュース

プレスリリース：トリインフルエンザ オランダで初めて規制の緩和

Avian influenza: First easing of restrictions in the Netherlands, (expressed on 13 June 2003)

5 月初旬から新規の発生がないことから、オランダ全土での生きた鶏の移動規制を、6 月 18 日から特定地域に限定することを提案

[http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p\\_action.gettxt=gt&doc=IP/03/837|0|R APID&lg=EN&display=](http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p_action.gettxt=gt&doc=IP/03/837|0|R APID&lg=EN&display=)

トリインフルエンザ：年表更新

Avian Influenza : Chronology of outbreak in the Netherlands, Belgium and Germany starting 28 February 2003(269KB) updated

[http://europa.eu.int/comm/food/fs/ah\\_pcad/ah\\_pcad\\_77\\_en.pdf](http://europa.eu.int/comm/food/fs/ah_pcad/ah_pcad_77_en.pdf)

- EU public health

[http://europa.eu.int/comm/health/ph\\_threats/com/sars/sars\\_en.htm](http://europa.eu.int/comm/health/ph_threats/com/sars/sars_en.htm)

- Eurosurveillance

<http://www.eurosurveillance.org/index-02.asp>

スコットランドにおける *E. coli* 対策

Implementation of *E. coli* task force recommendations in Scotland

スコットランドの *E. coli* タスクフォースの報告書（2001）とそれを受けた FSA のレポート（2002）によって、*E. coli* O157 による被害を減らすための様々な対策が実行された。消費者教育、ベクターとしての野生ウサギの調査、サーベイランスの改善、など、5つのポイントが挙げられる。

参照：Scottish Executive. Implementing the recommendations of the Task Force on *E. coli* O157. (<http://www.scotland.gov.uk/library4/HD/PHPU/00017411.aspx>)

<http://www.eurosurveillance.org/ew/2003/030619.asp#4>

- European Food Safety Authority

<http://www.efsa.eu.int/>

緊急ニュースなし

- Food Standards Australia New Zealand

<http://www.foodstandards.gov.au/>

緊急ニュースなし

- Codex

<http://www.codexalimentarius.net/>

第26回 CAC の案内

## 食品化学物質関連情報

### 【外国機関のニュース】

- WHO - Food Safety (<http://www.who.int/fsf/>)

該当ニュースなし

- FAO - Food and Nutrition ([http://www.fao.org/es/ESN/index\\_en.stm](http://www.fao.org/es/ESN/index_en.stm))

該当ニュースなし

- EU (Food Safety: from the Farm to the Fork)  
([http://europa.eu.int/comm/food/index\\_en.html](http://europa.eu.int/comm/food/index_en.html))

1. EC は不公正な商業行為の禁止を提案。不公正の主なカテゴリーは誤解を招くものと攻撃的なもの (misleading and aggressive) の2つ。Misleading practices の例としては、認可されていないのにされているような記述をする、新聞などで広告なのに記事のように見せる、など。Aggressive practices の例としては繰り返し自宅を訪問する、病気などの不幸につけ込んで商品を売る、など。

Rough times for rogue traders: Commission proposes EU-wide ban on unfair commercial practices (18 June 2003)

[http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p\\_action.gettxt=gt&doc=IP/03/857|0|R APID&lg=EN&display=](http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p_action.gettxt=gt&doc=IP/03/857|0|R APID&lg=EN&display=)

それに関する Q&A

Questions and answers on the proposed Unfair Commercial Practices Directive, (18 June 2003)

[http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p\\_action.getfile=gf&doc=MEMO/03/135|0|R APID&lg=EN&type=PDF](http://europa.eu.int/rapid/start/cgi/guesten.ksh?p_action.getfile=gf&doc=MEMO/03/135|0|R APID&lg=EN&type=PDF)

2. EC は新しい BSE 試験を認可

Prionics 社による *Prionics Check LIA* 及び InPro 社の *InPro CDI-5* を迅速 BSE 試験法として認める。現在使用が認められている *Prionics Check Western*, *Bio-Rad TeSeE* (previously Bio-Rad Platelia) 及び *Enfer BSE test* の3種類に加えて5種類が使えるようになった。

Commission approves new BSE tests (19 June 2003)

[http://europa.eu.int/comm/dgs/health\\_consumer/library/press/press293\\_en.pdf](http://europa.eu.int/comm/dgs/health_consumer/library/press/press293_en.pdf)

3. 発がん性のある成分を含むトウガラシ製品の輸入停止のための緊急措置

EU メンバー国の代表から成る SCFCAH (Standing Committee on the Food Chain and

Animal Health) は 6 月 17 日、発がん性のある Sudan red I (合成色素。食品中に認められていない。) を含むトウガラシ製品の輸入停止を決めた。フランスが 5 月に輸入トウガラシ製品中に Sudan red I を検出し、直ちに暫定的な防止措置をとると同時に、Rapid Alert System for Food and Feed を通じて SCFCAH 及び他のメンバー国に危険性を通告していたもの。SCFCAH は 6 月 18 日、この防止措置を EU 全体に拡大することに同意した。この決定により、メンバー国は砕いたり粉にしたトウガラシの輸入品に Sudan red I が含まれていないことを確認しなければならない。また既に市場に出回っているトウガラシについても Sudan red I が含まれていないか無作為に抽出して試験し報告する。(下記の第 24 週アラート参照。これによれば原産国はインド。)

Emergency measures approved to stop import of carcinogenic hot chilli,  
(18 June 2003)

[http://europa.eu.int/comm/dgs/health\\_consumer/library/press/press292\\_en.pdf](http://europa.eu.int/comm/dgs/health_consumer/library/press/press292_en.pdf)

#### 4. Rapid Alert System for Food and Feed

##### 1) 第 23 週

アラート：サメの水銀、食肉のサルモネラ、「脂肪燃焼」カプセルの 2,4-dinitrophenol、冷凍エビのニトロフランなど。

報告：アフラトキシン (多数)、水銀、カドミウム、ニトロフランなど

Weekly overview of alert and information notifications - week 23

[http://europa.eu.int/comm/food/fs/sfp/ras\\_week23\\_en.pdf](http://europa.eu.int/comm/food/fs/sfp/ras_week23_en.pdf)

##### 2) 第 24 週

アラート：5 件 (色素 Sudan I、Allura red、3-MCPD など)、

報告：アフラトキシン、カドミウム、水銀、ニトロフラン、クロラムフェニコール (飼料) など

Weekly overview of alert and information notifications - week 24

[http://europa.eu.int/comm/food/fs/sfp/ras\\_week24\\_en.pdf](http://europa.eu.int/comm/food/fs/sfp/ras_week24_en.pdf)

#### ● 米国

FDA (食品医薬品庁) (<http://www.fda.gov/>)

CFSAN (Center for Food Safety & Applied Nutrition)

(<http://www.cfsan.fda.gov/list.html>)

1. Federal Trade Commission (FTC) と FDA は、Coral Calcium Supreme というダイエタリーサプリメントの販売者を、根拠のない健康効果 (がんや多発性硬化症、心臓病に効く) があるという不正な宣伝をおこなっているとして告発。

FTC and FDA Take New Actions in Fight Against Deceptive Marketing (June 10 2003)

<http://www.ftc.gov/opa/2003/06/trudeau.htm>

2. FDA はニュージャージー州ニュートンの NVE, Inc 社の SIGRA, STAMINA Rx and STAMINA Rx for Women, Y-Y, Spontane ES 及び Uroprin を購入あるいは摂取しないよう注意喚起。これらのダイエタリーサプリメントは欧州で男性機能不全治療薬として認可されているシアリス (Cialis) の有効成分タダラフィル (tadalafil) を含む。硝酸塩を含む処方薬 (ニトログリセリンなど) とタダラフィルは急激な血圧低下を招く相互作用を起こすおそれがある。

FDA Public Health Advisory: (June 20, 2003)

FDA Warns Consumers Against Taking the Following Dietary Supplements-SIGRA, STAMINA Rx and STAMINA Rx for Women, Y-Y, Spontane ES and Uroprin

<http://www.fda.gov/bbs/topics/ANSWERS/2003/ANS01235.html>

3. FDA と USDA の共同検査により、シカゴを拠点にする冷蔵食品倉庫会社 LaGrou Distribution System, Inc の管理職 3 名が起訴された。2200 万ポンド以上の肉・鶏肉他の食品を不衛生な、げっ歯類の棲みつく状態で保管した罪。

Three Executives Indicted after Joint FDA-USDA Inspection of Chicago Food Warehouse (June 20, 2003)

<http://www.fda.gov/bbs/topics/ANSWERS/2003/ANS01234.html>

4. CFSAN のマネージメントの変更

CFSAN の director から

当センターではここ数年、食品の安全を活動の中心に据えてセンターを組織してきた。2001 年 9 月 11 日以降、食物の供給における「セキュリティ」が同様に重要になってきた。さらに近年、米国は肥満の問題に直面しており、ダイエタリーサプリメントにより多くの注意を払う必要もあって、"応用栄養 applied nutrition" プログラムが再び最前線に出てきている。こうした状況をふまえより迅速に効率よく効果的に対応できるように組織を変更。

Management Changes in the Center for Food Safety and Applied Nutrition (CFSAN) (June 23, 2003)

<http://www.cfsan.fda.gov/~dms/cfsan603.html>

5. DHA を噴霧する (日光によらない) 「日焼け」ブースについて

FDA は、色素添加物であるジヒドロキシアセトン(DHA)をミストやスプレーの形で使用する (日光によらない) 「日焼け」ブースに関して、その安全性と合法性についての質問を受けた。

DHA-Spray Sunless "Tanning" Booths (June 2003)

<http://www.cfsan.fda.gov/~dms/cos-tan4.html>

●米国 FSIS (US Department of Agriculture, Food Safety and Inspection Service)

(<http://www.fsis.usda.gov/index.htm>) 緊急ニュースなし

●英国 Food Standards Agency (食品基準庁) (<http://www.food.gov.uk/>)

1. 2, 4-Dinitrophenol(DNP) を含む「脂肪燃焼」カプセルに対する警告

このカプセル3~4錠(もしくはDNP 1,000mg)を一度に飲むと死亡する可能性がある。より少量(1日に1錠以下)摂取を長期間続けると白内障などの重大な健康影響を及ぼす。

Alert over DNP 'fat burner' capsules (17 June 2003)

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/dnpfatburner>

この製品はボディービルダーの間で、脂肪を落とすとして使われている。フィンランド政府がこの健康被害の問題について EC を通じ FSA に通知した。フィンランドの試験では、インターネットで販売されていた錠剤が、380mg の DNP を含んでいた。このカプセルを販売した Web の拠点は英国と思われる。

プレスリリース全文

FSA が DNP を含む「脂肪燃焼」カプセル摂取に関して緊急勧告

Food Standards Agency issues urgent advice on consumption of 'fat burner' capsules containing DNP (17 June 2003)

<http://www.food.gov.uk/news/pressreleases/fatburnpress>

2. 鶏肉に水をいれる詐欺の取り締まり強化

FSA は EC に、チキンに添加される水の上限を 15% に設定し、ブタやウシのたんぱく質を加えることは禁止する提案をした。

Crackdown on water in chicken scam Thursday, 19 June 2003

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/waterchicken0603>

3. 遺伝子組換え食品の表示に関する調査報告書が出された

調査した 91 検体のうち、1%以上の遺伝子組換え体(GM)を含むものはなかったが、8 検体は 1%未満の GM を含み、そのうち 3 検体は GM フリーと表示されていた。

Report published on checks on labelling of GM foods (20 June 2003)

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/gmlabellingchecks20june2003>

4. オーストラリアで製造許可を停止されているパン・ファーマシューティカル (Pan Pharmaceuticals) 社の製品で、英国に出回っているものについての情報を更新。これらの製品による健康被害はいまのところない。

Statement on Pan Pharmaceuticals products (20 June 2003)

[http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/pan\\_pharm](http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/pan_pharm)

5. 養殖鮭に放射性物質テクネチウム-99 (Tc-99) が見つかったとグリーンピースが報告した問題で、FSA は EU の許容線量を超えるためには一日 700 切れの鮭を一年間食べ続ける必要があると発表。低レベルの Tc-99 はセラフィールド (Sellafield) 近海のロブスターや甲殻類などによく見つかる。

Agency responds to radioactivity in farmed salmon survey (23 June 2003)

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/farmedsalmonsurvey>

注)

※英国のセラフィールド核燃料再処理プラントで核燃料再処理時に排出される放射性物質テクネチウム-99 が、大学の調査によりスーパーで販売されている養殖鮭に検出された。グリーンピースも、テクネチウム-99 が他の魚にも検出されたと報告した。

※テクネチウム-99 については、放医研の下記のページ参照

<http://www.nirs.go.jp/qa/html/qa018.html>

●カナダ ヘルスカナダ Health Canada - Food and Nutrition

([http://www.hc-sc.gc.ca/english/lifestyles/food\\_nutr.html](http://www.hc-sc.gc.ca/english/lifestyles/food_nutr.html))

緊急ニュースなし

●カナダ Canadian Food Inspection Agency (<http://www.inspection.gc.ca/>)

1. 生の殻つきジャンボ淡水エビにニトロフラン

タイ産の、Aqua Star 社の輸入したもの

I.Q.F. Raw shell-on jumbo freshwater prawn - 16/20 CT. may contain nitrofurans  
(12 June 2003)

<http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/recarapp/2003/20030612ce.shtml>

2. 淡水ナマズの切り身にニトロフラン

マリタイム州で March 18, 2003 から March 31, 2003 に売られたもののみ

Fresh water catfish fillets may contain nitrofurans (12 June 2003)

<http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/recarapp/2003/20030612be.shtml>

3. 新鮮マグロステーキが高濃度のヒスタミンを含む

Seacore Seafood Inc.,社の製品でオンタリオ州で販売。4人が中毒症状を訴えている。

Fresh tuna steaks may contain high levels of histamine (13 June 2003)

<http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/recarapp/2003/20030613e.shtml>

4. Dickinson's ブランドの蜂蜜にクロラムフェニコール

Health hazard alert : Certain Dickinson's brand honey may contain chloramphenicol

(21 June 2003)

<http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/recarapp/2003/20030621e.shtml>

● オーストラリア・ニュージーランド Food Standards Australia New Zealand  
(<http://www.foodstandards.gov.au/>)

1. FSANZ ニュース

残留農薬や動物用医薬品、環境化学物質の食品中濃度についてのモニター報告

Food Surveillance Australia New Zealand Autumn/Winter 2003 edition

<http://www.foodstandards.gov.au/mediareleasespublications/foodsurveillancenewsletter/autumnwinter2003.cfm>

【関連雑誌、学会】

1. Cadmium intake of moose hunters in Finland from consumption of moose meat, liver and kidney  
Food Additives and Contaminants, 20(5), 453 - 463, 2003  
L. Vahteristo et al.
2. Testicular toxicity of dietarily or parenterally administered bisphenol A in rats and mice  
Food and Chemical Toxicology 41, 1035-1044, 2003  
O. Takahashi and S. Oishi
3. Nutritional factors may modify the toxic action of methyl mercury in fish-eating populations.  
J Nutr. 133 ( 5 Suppl. 1), 1539S-43S, 2003  
T.W.Clarkson and J.J.Strain
4. Organochlorines, Lead, and Mercury in Akwesasne Mohawk Youth  
Environmental Health Perspectives, 111(7), June 2003  
L. M. Schell, et al.
5. Weak Yet Distinct Mutagenicity of Acrylamide in Mammalian Cells  
J. National Cancer Institute, Vol. 95, No. 12, 889-896, June 18, 2003  
A. Besaratinia and G.P. Pfeifer
6. Weak Yet Distinct Mutagenicity of Acrylamide in Mammalian Cells  
Ahmad Besaratinia, Gerd P. Pfeifer  
Journal of the National Cancer Institute, Vol. 95, No. 12, 889-896, June 18, 2003
7. Who Knows Whether Acrylamide in Food Is Hazardous to Humans?  
Fredrik Granath, Margareta Törnqvist  
Journal of the National Cancer Institute, Vol. 95, No. 12, 842-843, June 18, 2003